

会 議 録

会議名 (審議会等名)		川西市社会福祉審議会		
事務局 (担当課)		健康福祉部 福祉推進室 福祉政策課 内線2652		
開催日時		平成20年7月4日(金) 10時00分～12時15分		
開催場所		川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	藤井会長、久副会長、北上委員、菅原委員、池田委員、関委員、藤澤委員、久恒委員、中村委員、小田委員、小畑委員、峯本委員		
	その他	健康福祉部益本部長、福祉推進室杉岡参事、障害福祉課荒崎課長、健康生活室今北室長、乾参事、長寿・介護保険課大田課長、堀本主幹、健康づくり室堀古室長、木下主幹、石田主幹、こども部後藤部長、子育て室藪野室長、子育て支援課小林課長、保育課塚北課長、青少年支援課吉田課長、川西市社会福祉協議会増子事務局長、荻本副主幹		
	事務局	福祉推進室根津室長、福祉政策課芝課長・丸野課長補佐・樋口主任		
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p>1 開会</p> <p>(1) 委嘱辞令の交付</p> <p>(2) 市長あいさつ</p> <p>(3) 会長・副会長の選任協議</p> <p>2 報告</p> <p>(1) 福祉デザインひろばづくり事業の昨年度活動実績について</p> <p>(2) 災害時要援護者支援の取組み状況について</p> <p>(3) 第3回地域福祉市民フォーラムの状況について</p> <p>(4) 福祉ラウンドテーブルの実施状況について</p> <p>(5) 福祉関係部署の事業進捗状況及び各専門部会の活動状況について</p> <p>(6) 地域福祉計画に関連する行政各課の昨年度の取組み状況について</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 地域福祉計画見直しのポイントについて</p> <p>(2) 市民アンケートの実施について</p> <p>(3) 第4回地域福祉市民フォーラムの開催案について</p> <p>(4) その他 今年度の社会福祉審議会の開催計画について</p>			
会議結果	別紙審議経過のとおり			

	<p>●開 会 ※司会進行 福祉政策課芝課長 ●委嘱辞令の交付 ※市長から出席委員12名へ ●市長あいさつ ●会長・副会長の選任協議 ※藤井会長・久副会長に決まる ※市長は次の公務のため退席</p>
<p>会 長</p>	<p>【報告の部】 川西市の地域福祉計画は、県内でも早く策定され、福祉の総合計画としての枠組みを作られている。今回は、単に地域福祉計画の見直しだけではなく、各分野において総合的に策定されるものと思われる。今年度4回の審議だが、良い方向への運営に努めるので委員の皆様のご協力をお願いする。</p>
<p>事務局</p>	<p><配布資料の確認のあと、報告（1）から（4）まで事務局から説明する> （1）福祉デザインひろばづくり事業の昨年度活動実績 福祉デザインひろばづくり事業は現在市内14地区のうち13地区が事業を展開。今年度中に全地区で開設となるよう進めている。 （2）災害時要援護者支援の取組み状況 14地区の福祉委員会エリアで要援護者の情報管理団体・安否確認団体の体制づくりを展開。現在、2地区で安否確認の登録リスト完成。 （3）第3回地域福祉市民フォーラムの状況 「災害時要援護者支援の取組みから地域福祉を考える」をテーマに、実行委員会形式で2月23日に文化会館大ホールで開催。観覧者数250人。 （4）福祉ラウンドテーブルの実施状況 昨年8月：障害者と地域との連携（49名参加）10月：NPOと地域の交流・連携について（35名）の2回開催。</p>
<p>副会長</p>	<p>災害時要援護者支援の取組みは、地域コミュニティ組織が確立されている地区は立ち上げが早いように思う。行政側も今後は地域振興担当との連携も考えて進めれば良いのではないかと。</p>
<p>事務局</p>	<p>地区福祉委員会を通じて、自治会等との体制づくりに努力してもらっている。14地区の中には自治会の多い地区や少ない地区、また、コミュニティ組織の無い地区もあるが、地区検討委員会を組織され検討を進められている。</p>
<p>委 員</p>	<p>多くの自治会が集まりコミュニティ組織を運営している地区もあり、体制の違いがある。そのため判断に時間のかかる地区がある事も理解してほしい。</p>
<p>会 長</p>	<p>自治会活動は非自治会員に対し限界がある。非自治会員を福祉委員会がカバーするのはそれぞれの役割が明確になり、相互作用ができて良いと思う。</p>

委 員	民児協でも「災害時ひとりも見逃さない運動」の取り組みをどう展開しようかと思案しているところへ市からの取り組みがあり、連携して動き出せた。
会 長	他市の民児協では、どう取り組むか悩んでいる所もある。そういう意味では、川西は一步進んでいる。
委 員	安否確認のリスト登録で、ひとり暮らし高齢者が対象となっているが老老介護の世帯もある。独居の方も大事だが、老人だけの世帯も大事だと思う。
事務局	体制が整った地区は全戸配布していただいている。その時に高齢者夫婦の世帯や日中独居の方も登録できるよう説明してもらっている。
委 員	ラウンドテーブルに参加した。NPO法人は認知されていない部分がある。「なんでこの場にNPOが？」と言われることがある。高齢者や障害者が暮らしやすいようにと思って関わっており、NPOの活動を理解してもらいたい。
副会長	ラウンドテーブルはもう少し頻繁に、期間を短くして開催したほうが、更に発展すると思う。ネットワーク会議の回数も少ない。月1回ぐらいでフランクな形で集まれる雰囲気を出すといい意見が出てくる。自分のペースで出てこられ、ざっくばらんに意見交換できる雰囲気作りを応援してほしい。
会 長	地域福祉の要は課題の共有化である。今までは地域ごとに福祉デザインひろばづくり事業を広める努力をしてきたが、これからは質の面でどうするかが検討課題となる。イメージ付けが大事なので質疑に時間をかけた。
各担当	<p><報告(5)を各担当所属より説明> ※質疑なし</p> <p>①障害福祉課 ②健康生活室 ③健康づくり室 ④こども部 の順に説明</p>
	<p><報告(6)を事務局と社会福祉協議会より説明> ※質疑なし</p> <p>※障害福祉課、健康生活室、健康づくり室、こども部の職員は退席。</p>
事務局	<p><時間の都合で議題(1)(2)(3)の統合を承諾いただき、事務局より説明。></p> <p>7月と9月に福祉ラウンドテーブルを2回開催、8月下旬から11月上旬にかけて地区別・分野別ワークショップを開催、11月に市民フォーラムを開催、8月下旬ごろに市民アンケート、2月中旬ごろにパブリックコメント実施を計画。アンケートは福祉政策課が前回平成14年度実施と同じ設問で5年を経た市民の意識を調査。社会福祉協議会が地域福祉推進計画策定の基本となる設問を担当し共同で実施。無作為抽出3,000人を対象に郵送する。</p>

事務局	フォーラムは仮題として「地域福祉計画の見直しから、これからの地域福祉を考える」をテーマに、昨年同様、実行委員会形式で開催したい。
会 長	議題1から3を包含して説明した。計画の見直しにあたって、フレームやプロセスの部分で、大筋で意見はないか。
委 員	全体的に地区の福祉推進力をあげる事が大切になってくる。地域力とか地域の絆が弱まっている。地域になじめないとすぐ引越しをする。そこに職場があるとか、市に対して期待しているなど、地域や市に対する思いが強くなれば地域力があがる。そういう工夫を織り込めないか。地域福祉の基盤になると思える。研究してみてほしい。
会 長	全体の枠組みの中での課題になると思われる。
委 員	部門別になっていて良いと思う。生涯学習センターで学習の場として「レフネック」があるが高齢者対策として良い。そのレフネックを修了したら地域活動に携わってもらえるような仕組みを作ってはどうか。また、おとなも子どもも高齢者も気軽に集える居場所作りも必要。地域の絆としても、子どもが学校帰りに立ち寄れるような場所を各地区に作ってほしい。
会 長	ワークショップやラウンドテーブルで、どういう意見を聞き出したいか、どういう論議をしていきたいのか、傾向をつかむためにも考えておくことが必要。アンケートも5年前の意識との比較調査も大事だが、新しい福祉課題をどこで汲み取っていくのが大切。
事務局	社協と連携でアンケート調査するが、市は5年間の市民意識の変化、社協はこれからの福祉課題を模索する内容に色分けしたいと考えている。ワークショップやラウンドテーブルではポイントを絞った進め方に留意していく。
副会長	市民と一緒に地域福祉活動をしているが、確かに地域力が低下している。しかし、この1年で感じている事だが、30歳代の方々が地域活動に熱心になってきているように思う。地域でネットワークを組んで動こうとされている。私もラウンドテーブルを主催しているが30歳代の参加者が多い。そういう所へ来て、地域の福祉活動を彼らはどう感じているのか聞いてみてはどうか。20歳代、30歳代の集まりの中に出かけて行ってはどうか。
会 長	もう少し意見を聞きたいので10分間だけ延長させてもらって良いか。 ※出席委員の同意を得て延長。一人の委員が所用のため退席された。

委 員	2週間前にテレビ番組で「ご近所の人と話しているか」というのがあった。その中で「隣人まつり」といって、近所の人が食べ物を持ち寄って集まり、高齢者も若い人も集まって話をする場を作っていた。高齢者の話題だけでは無く様々な年代の人と話ができる場を番組で取り上げていた。これからの地区の問題を考えていくうえでヒントになるのではないかと思う。
委 員	災害時要援護者支援の安否確認は一つのツールにすると、かなりの成果が出るかもしれない。向こう三軒両どりの感覚で、平素からの見守りやお付き合いをすることは、地域の大きな底力につながっていくと思われる。
委 員	団塊の世代は地域にどう関わっているのか。結構、自分の趣味や旅行などに時間を使われているが、レフネックなどで「地域に目を向けてほしい」というようなことを示してもらいたい。年代に関わらず、子ども、障害者、誰でも寄れる場所が地域ごとにあればいいと思う。
委 員	地域はどう変わったのか、ニーズに対してどう答えられたのかを評価すると言われたが、本当は何も変わっていないのではないか。地域はどう変わらないといけないのか、ネットワークの広がりはどうあればいいのか、変わったところがわからない。
会 長	成果評価の部分で、事業のプロセス評価、アウトプットの評価という事になるが、福祉デザインひろば事業で地域の繋がりがどう深まったのか、その評価が難しい。そこを検討しなければいけないが手法が確立されていない。
委 員	成果評価が難しいという話だが、先ほどからの各報告では「こんなことをやりました」ということばかりで、やってみたらこうなりましたという評価が無い。報告のときに課題や問題点も一緒にあげるようにすべきだ。
会 長	まさにそこが課題。見直しのプロセスで出てくるのか。出にくいのであれば各課の報告を論議し、どう評価するか検討しながら進めてはどうか。
副会長	それで良いと思う。報告と反省を含めて、これから進めてもらえば良い。
会 長	議題なので確認させてもらう。このままの案文で、アンケートもフォーラムも最終的には事務局一任で進めてもらって良いが、特にアンケートの内容で意見があれば、事務局はいつまで受付てもらえるか。
事務局	来週末（7月11日）までをお願いしたい。

会 長	何か意見があれば来週末までということで、個別に事務局までお願いします。 最終的には事務局に一任するという進めてもらって良いか。 ※委員から異議なし
会 長	これで議題の3つは一括して了承したということにする。その他の事項の説明を。
事務局	今年度4回の審議会開催を計画している。各委員のスケジュールを聞かずに取り決めて申し訳ないが、次回を10月1日、3回目を1月28日、4回目を3月24日と決めさせていただき進めさせてもらいたい。 ※委員から異議なし
会 長	では、これで第1回の社会福祉審議会を終了する。
事務局	会長、副会長ありがとうございました。閉会にあたり、健康福祉部長よりご挨拶申し上げます。
	●健康福祉部長 閉会あいさつ
事務局	長時間の審議をありがとうございました。 午後0時15分終了

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。